

Vol.239



かけはし

理念

すべては患者様と
地域社会のために

病院ホームページは

<https://www.mhi.com/jp/company/hospital/kobe/>

発行責任者 病院長 中村 吉貴



難聴の脳から聞こえる脳へ ～難聴・耳鳴に補聴トレーニングを～

耳鼻咽喉科部長
石黒 佳代子

最近、難聴は認知機能を低下させる危険因子であることがわかってきました。

「聞こえ」を維持することは認知症発症の危険性を少なくすることにつながるのです。

【ことばが聞こえる仕組み(図1)】

人はどのようにしてことばを理解しているのでしょうか。

私たちの耳は音を集め、音声情報を電気信号に変えて脳に伝えます。脳が音声情報を処理し、ことばとして理解しています。

耳は音を運び、脳で理解するのです。

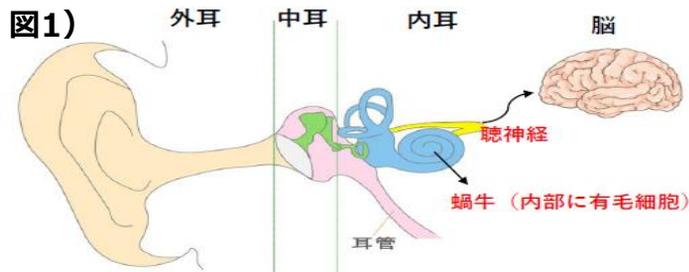
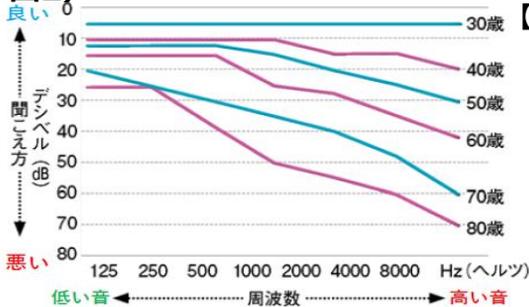


図2)



【加齢とともに聴力低下(図2)】

加齢とともに蝸牛の中にある有毛細胞は減少し、徐々に難聴が進行していきます。加齢による難聴は40歳頃から始まり、60歳頃から急速に悪化します。

小さな音、高い音から始まり、進行すると日常会話も聞こえにくくなります。聞き間違い、聞き返しが多くなり、人と会うことがおっくうになります。人とコミュニケーションをとることが難しくなり、社会活動が減少し、認知症発症リスクが高くなるのです。

【聴覚トレーニングで難聴の脳から聞こえる脳へ】

聞こえが悪くて日常生活に支障がでてきたら、自分にあった補聴器で聞こえを補い、生活の質を改善することを考えましょう。(図3)

加齢性難聴では、長い間、音声刺激が脳に伝わらないため、脳は**難聴の脳**になっています。難聴の脳を聞こえる脳へ変えていくには、**補聴器による脳のトレーニング**が必要です。毎日、起きてから寝るまでしっかり補聴器をつけて、脳を補聴器から入ってくる音声情報に慣らしていくことで、脳の神経回路は変化し、**難聴の脳から聞こえる脳へ**と変わっていくのです。

また、難聴の脳は足りない音声情報を補うため、過剰に興奮します。耳鳴はこの脳の過剰な興奮により発生するといわれています。補聴器をつけると脳が頑張らなくても音声情報が届くようになり、脳の過剰な興奮はおさまり、耳鳴りも改善するといわれています。

補聴器に慣れるまで3~6か月はかかります。どうしても辛いときは、無理をしないで、補聴器を外して休憩しましょう。

補聴器は「まだ早い」「雑音がうるさい」と思われている方が多いのですが、難聴、耳鳴でお困りでしたら、一度、補聴器を試されてはいかがでしょうか。

【補聴器外来を始めました】

三菱神戸病院耳鼻咽喉科では、2023年4月から補聴器外来を始めました。補聴器相談医が認定補聴器技能者と連携して難聴・補聴器相談を行っています。他施設で購入された補聴器についても相談可能です。また、新しく補聴器購入を考えられている方に対しては、2~3か月にわたる無料試聴を行っています。試聴期間中には使用状況、補聴器の調整をさせていただきます。詳しくは耳鼻咽喉科受付までお問い合わせください。*年齢に関係なく、耳鳴・難聴が気になるときには、できるだけ早く、耳鼻咽喉科にご相談ください。

図3)

小さい音	難聴レベル
ささやき声が聞こえない	軽度
普通の会話の声が聞こえない	中等度
大声の会話声が聞こえない	高度
車のクラクションが聞こえない	重度
大きい音	

～お問い合わせ先～

耳鼻咽喉科受付

078-672-2632 (外線)

8-63-22632 (内線)

新任医師紹介

本年6月に麻酔科医師が着任しましたので、ご紹介いたします。

麻酔科 塩崎 恭子

6月よりこちらに着任することとなりました。

麻酔科は、あまり日常でお会いすることもない科ではありますが、手術のお手伝いをさせていただいています。

手術といえば、不安を感じることも多いと思いますが、安心して手術を受けていただけるよう医師、看護師と協力し、安全を第一に心がけて麻酔させていただきます。何か気になることがあれば、お気軽に質問してください。



手外科のリハビリテーション

リハビリテーション科
作業療法士 阪口 勇一

当院リハビリテーション科では、3名の作業療法士がいます。作業療法士は主として、肩や肘、手のリハビリを行っています。手に特化したリハビリをハンドセラピーといい、手の動きの回復を目指す機能訓練や患者様ごとに必要な日常生活動作訓練を行うことで「useful hand(使える手、生活する手)」を目指しています。その中で医師の指導のもと、図のようなスプリント療法を行っています。スプリントは装着することで、安静度を守ること、筋肉や腱などの柔軟性を回復させること、患者様の日常生活動作を改善することを目的としています。スプリントは作業療法士が作成しており、患者様に合わせて調整し、回復時期に合わせた強度や破損時の補修などすぐに対応させていただきます。



その他にも、怪我や障害による日常生活上の問題に対して、最適な自助具の紹介やアドバイスなどをさせていただいております。指や手首の痛みがある、動きにくいなど手に関わることについては一度当院整形外科へお気軽にご相談ください。



リウマチなどに使用する
オーバルエイト



屈筋腱損傷に使われる
ダイナミックスプリント



側副靭帯損傷で
使用した固定装具



セーフティピンズプリント



回内位固定装具



お問い合わせ先
整形外科受付
078-672-2628 (外線)
8-63-22628 (内線)

松本名譽
院長の

「ちょっとためになる生活習慣病のお話」

～糖尿病について～

内科の松本健です。今後、少しでも皆様のためになるような生活習慣病に関連したお話をしていきたいと思ひます。第1弾は、糖尿病についてお話しします。

健康診断や人間ドックの採血結果で「HbA1c (ヘモグロビンA1c)」という項目があります。既に糖尿病とされている方、糖尿病で治療中の方はよくご存知だと思います。これは採血時から過去1～2か月間の平均血糖値を反映したものになります。そのため、血糖値が高い期間が多くあるほど値が高くなります。臨床の場では、「4.6%～6.2%」が基準値(=正常値)となります。お気づきの方もおられるかもしれませんが、健康診断の結果を見ますと基準値が、「～5.5%」となっています。これは健康診断では基準を厳しくし、早期に注意を促そうという意図があるからです。

なぜ、基準を厳しくしているかという「糖尿病予備軍」という言葉を聞いたことがあると思いますが、健康診断基準と臨床基準の間の値、「5.6%～6.2%」の中にこの予備軍の方が含まれているからです。

そのため、この範囲の値の方は食べすぎ飲みすぎなどに注意し、数値が上昇しないか見守る必要があります。

また、両親や血縁者に糖尿病の方がおられる方は、特に注意が必要です。遺伝的な要素がかなり影響を与えていると言われています。

特に心配な方は「糖負荷試験」という検査を受けましょう。

砂糖水のようなものを飲んで、飲む前と飲んだ後30分、1時間、2時間後の血糖と血糖を下げるホルモン(インスリン)を採血して測定することにより、本当の糖尿病か境界型糖尿病(糖尿病予備軍)かを診断します。その結果で注意の程度が変わってきます。当院でも検査できますので、気になる方はお気軽にお問合せください。

★今回覚えておいて頂きたいこと★

1. 健康診断や人間ドックは必ず受けましょう。
2. HbA1cの項目をチェックしましょう。
3. 血糖値の値が5.6%～6.2%でも油断は禁物。特に両親・血縁者に糖尿病の方がおられる方は注意しましょう。
4. 不安なら糖負荷試験を受けましょう。
(当院でも受診可能)

放置しておくともろしい糖尿病



糖尿病の初期は、痛くもかゆくもありませんが、放置していると、いつの間にか合併症が忍び寄っています。合併症が発生してからでは、遅すぎます。

お問い合わせ先

内科受付 外線 078-672-2619
内線 8-63-22619

2023年度 第1回

「院内講演会開催のご案内」

循環器内科部長 吉野医師による院内講演会の開催を、次のとおり予定しております。どなたでもご予約不要でご参加頂けますので、ぜひお気軽にご参加ください。

テーマ 「高齢化社会と心不全の今後」
日時 6月26日(月) 午後3時30～(約30分)
場所 本館1階 内科待合



循環器内科部長
吉野 直樹